

令和4年度決算の概要

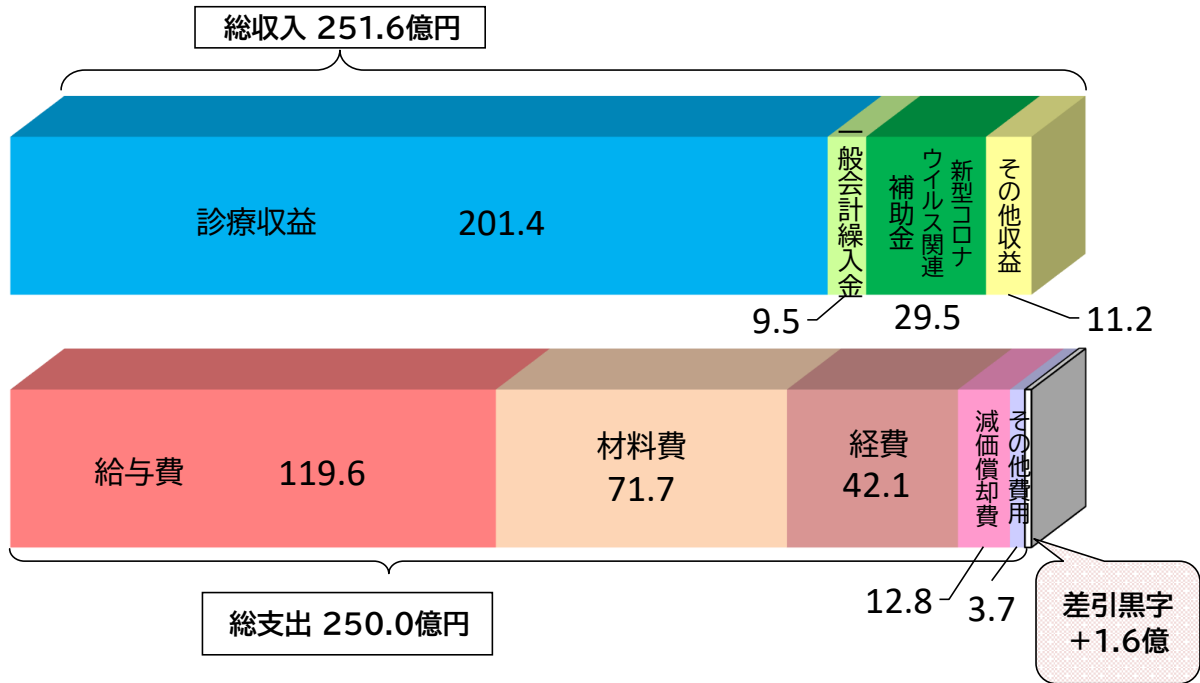
令和4年度の病院事業会計決算は、前年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症患者受入対応のため、一般診療の制限を行ったものの、感染状況に応じ段階的に制限を緩和したことから、患者数は増加しており、診療収益は前年度と比較して20.2億円の増加となりました。

一方で、病床確保促進事業費補助金が前年度から26.3億円減少し、経常収支は19.0億円の悪化となっています。

資金の状況としては、令和4年度単年度の資金残は▲27.7億円、過年度内部留保資金・一般会計からの長期借入金を合わせた年度末資金残は24.1億円となりました。

(1) 収益的収支(税込) <経営に伴って生じたすべての収益とそれに対応する費用⇒1年間の経営成績>

※端数処理により合計が一致しない場合があります。



【前年度との比較】

<総収入>
対前年度 ▲7.8億円(▲3.0%)

<内訳>

○診療収益 対前年度 +20.2 億円
患者数の増加により、入院収益・外来収益がともに増加したことによる。

○繰入金 対前年度 ▲0.3 億円

○新型コロナウイルス関連補助金
対前年度 ▲27.8 億円
感染症病床確保促進事業費補助金の減少など。

○その他収益 対前年度 +0.1 億円

<総支出>
対前年度 +11.3億円(+4.7%)

○給与費 対前年度 +1.7 億円
時間外勤務手当の増加、人事委員会勧告による勤勉手当等の増加などによる。

○材料費 対前年度 +5.4 億円
患者数の増加などによる。

○経費 対前年度 +4.9 億円
光熱水費の増加、委託料の増加などによる。

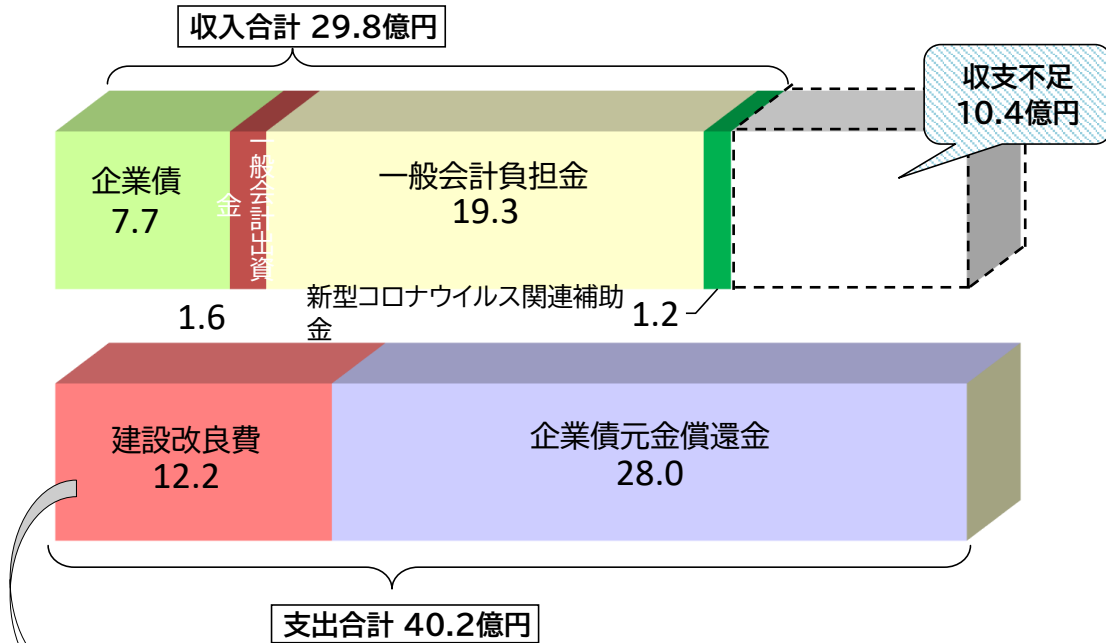
○減価償却費等 対前年度 +0.0 億円

○その他費用 対前年度 ▲0.7 億円

収益的収支差引は1.6億円の黒字であるが、前年度と比較すると19.0億円悪化している。

※感染症病床確保促進事業費補助金29.4億円がなかった場合、収益的収支差引は27.8億円の赤字となっていた。

(2) 資本的収支(税込) <建物や医療器械などの整備費用とその財源、借入金の返済など>



【建設改良費の内訳】

- 病院整備費 2.8 億円 医療ガス設備更新工事ほか
- 医療器械購入等 9.4 億円 総合医療情報システム端末機ほか

(3) 資金状況

当年度収支	▲8.8億円
(収益的収支1.6億円+資本的収支▲10.4億円)	
+	
損益勘定留保資金等(現金を伴わない収益と費用等)	▲18.9億円
当年度分資金残	▲27.7億円
+	
過年度内部留保資金(前年度までの資金残)	26.8億円
+	
一般会計からの長期借入金	25.0億円
年度末資金残	24.1億円

この資金については、市立札幌病院が、新型コロナウイルス感染症への対応を行いながら、救急や周産期等の医療を安定して供給し、地域の医療を支えていくために活用しています。